作成日 2002/01/01
改訂日 2026/06/01

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	酢酸ナトリウム
供給者の会社名称	エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社
住所	神奈川県川崎市川崎区千鳥町1番2号
担当部門	RC推進部
電話番号	044-266-6351
緊急連絡電話番号	上記担当部門
推奨用途	工業用一般、食品添加物【※当社食品添加物規格に限る】
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

注意喚起語	警告
危険有害性情報	H320 眼刺激
注意書き	
安全対策	取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
応急措置	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
他の危険有害性	情報なし
重要な徴候及び想定される非常事態の概要	情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	酢酸ナトリウム（無水）

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
酢酸ナトリウム	100 %	$NaCH_3CO_2$	(2)-692	既存	127-09-3

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じて処置すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素 大火災：噴霧水、通常の泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスクなど）を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 希釈水は腐食性及び/又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	元の容器に回収して再使用することは絶対に避けること。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	安全取扱注意事項	火気注意。 皮膚、眼との接触、ガスの吸入を避けること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。 酸化剤から離して保管する。 容器を密封して保管すること。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 長時間積圧をかけると固化する性質がある為、その配慮をする。
	安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。 吸湿性があるので密閉容器・耐湿性袋等に入れて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度（産衛学会）	許容濃度（ACGIH）
酢酸ナトリウム	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
酢酸ナトリウム（無水物）	未設定	未設定

設備対策		蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	呼吸用保護具	ほとんどの条件で呼吸保護は必要ない。しかし、埃っぽい雰囲気では認可ダスト呼吸器を使用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。
	手の保護具	ゴム手袋等、適切な手の保護具を着用すること。

		リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。
	眼、顔面の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。
特別な注意事項	情報なし	

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
形状	吸湿性の結晶性粉末(ICSC、2006)
色	白色(ICSC、2006)
臭い	無臭
融点／凝固点	324 ℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	可燃性。(ICSC、2006)
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	>250 ℃(closed cup、NITE)
自然発火点	607 ℃
分解温度	データなし
pH	7.5～9.2
動粘性率	データなし
溶解度	水:46.5 g(100 g, 20 ℃), 水:170 g(100 g, 100 ℃), 100 gのエタノールに2.1 g可溶(18 ℃)
n-オクタノール／水分配係数	-3.72(推定値、NITE)
蒸気圧	7.08E-07 mmHg(25 ℃、推定値、NITE)
密度及び／又は相対密度	1.528
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	吸湿性あり。(ICSC、2006)

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	空気中及び湿気により吸湿する。 潮解性がある。
危険有害反応可能性	加熱や強酸との接触により分解し酢酸ヒュームを生じる。 強力な酸化剤と激しく反応する。水溶液は弱塩基である。
避けるべき条件	加熱、裸火、スパーク、混触禁止物質との接触。
混触危険物質	強酸(酢酸ヒューム生成)、ジケテン(激しい重合)、フッ素(ジアセチルパーオキシドの生成を伴う爆発性の反応)、酸化剤(火災と爆発の危険性)、硝酸カリウム(爆発性の混合物形成)。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、酸化ナトリウム
その他のデータ	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット(経口)LD_{50}=3530 mg/kg(RTECS)より区分に該当しない。
	経皮	ウサギ(経皮)LD_{50}>10 g/kg(RTECS)より区分に該当しない。
	吸入	ラット(吸入)LC_{50}>30 g/m^3/1 hr(RTECS)より、4時間に換算した値LC_{50}>120 g/m^3から区分に該当しない。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		ICSC(2006)の短期暴露の影響に「眼、皮膚を軽度に刺激する」との記述があるが、RTECSで4時間試験ではないが、ウサギ10 mg試験結果の所見がMildと評価されていることから区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		ウサギ500 mg/24hr試験結果の所見がMildと評価されており(RTECS)、またICSC(2006)の短期暴露の影響に「眼、皮膚を軽度に刺激する」との記述があることから、区分2Bに分類した。
呼吸器感作性		データなし
皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし
その他のデータ	情報なし

12. 環境影響情報

水生環境有害性　短期（急性）	甲殻類（ミジンコ）48時間EC_{50}（遊泳阻害）>1000 mg/L（IUCLID、2000）より、区分に該当しない。
水生環境有害性　長期（慢性）	急性水生毒性が区分外であり、水溶性であり、また良分解性（NITE)であることから、区分に該当しない。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他のデータ	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	非該当
	航空規制情報	非該当
国内規制	陸上規制	非該当
	海上規制情報	非該当
	航空規制情報	非該当
	国連番号	非該当
	品名	非該当
	クラス	非該当
	副次危険	非該当
	等級	非該当
特別の安全対策		輸送前に容器の破損、腐食、漏れがないことを確認する。 転落、落下、破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号		なし

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	非該当
食品衛生法	食品添加物【※当社食品添加物規格に限る】
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）
外国為替及び外国貿易法	輸出許可貨物・補完品目（キャッチオール規制）（法第48条第1項、輸出令第1条別表第1の16の項（2））
水道法	有害物質（法第4条第2項）、水質基準（平15省令101号）

16. その他の情報

参考文献	ezSDS(JCDB) 国際化学物質安全性カード(ICSC、2006) RTECS(STNデータベース) MSDS-OHS(STNデータベース) 化学物質総合情報提供システム(CRIP、NITE) IUCLID(2000) 化学品法規制検索システム(ez-CRIC、JCDB)

その他	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

本安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に基づき作成しています。